脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.2

**提出書類**

**緊急事態対応を含む脱施設化に関するガイドライン案に関する意見書**

**（国連障害者権利委員会宛て）**

**提出者**

**知的障害のある男性**

**サポート**

**スロベニア共和国社会保護研究所**

[Validity Foundation –精神障害者人権擁護センター](https://validity.ngo/)

**2022年6月30日**

私は知的障害のある男性です。地域で暮らしています。

ガイドライン（わかりやすい版）を読んで

《主な意見》

　私たちは障害者（disabled people）ではありません。この言葉はダメです。この点以外は、ガイドラインはとても重要であり、省庁で働く一人ひとりが読むべきものです。また、私たちの組織の職員やすべての施設の職員も読んでください。

《ガイドライン》

　私は、すべての施設を直ちに閉鎖しなければならないと思います。すべての施設をです。ガイドラインでは、閉鎖棟については触れていません。

　スロベニアにある大きな施設に住んでいる友人を知っています。彼女を訪ねたとき、閉鎖棟も見ました。それはとてもひどいものでした。利用者が部屋で鍵をかけられるのです。それは、とても許されることではありません。

《ガイドラインに沿うこと》

　私たちのような組織（大きな施設ではない）も、特別なニーズを持つ人々のために空間やインフラを適応させるべきです。例えば、ドア、車、スロープなどです。

私はこの組織でこのことを訴えています。

　各利用者の個別計画は非常に重要です。利用者が必要とする適切なケアを行うことができるからです。利用者一人ひとりの個人計画は、利用者が必要とする適切なケアを手配するために、とても重要です。個人計画は単なる書類ではなく、何が書かれているとしてもすべて実行されなければなりません。

施設で働いている人、住んでいる人は皆、新しいことを試し、何が起こるかを見るために試行錯誤をする必要があります。私たちの組織では、職員が新しいことに挑戦することもあれば、利用者として私たちが提案したことを試みたりしています。

《特定のグループに対する不当な扱い》

　組織内のルールは重要ですが、私たち利用者が書くべきものです。ルールに、暴力に関するものがあります。私たちは平等でありたいと思います。

　特別なニーズを持つ人たちがコミュニティに住むことに反対する請願のための署名をコミュニティが集めることは許されることではありません。

注：この投稿で示された意見はインタビューされた一個人のものであり、必ずしも、当事者が協議プロセスに参加することを可能にしたヴァリディティ（Validity）財団の意見を反映したものではありません。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（訳　2023年4月： 尾上裕亮、岡本 明、佐藤久夫）